

# まちの史跡めぐり……(102)

町文化財専門委員 石瀧 豊美

江戸時代へようこそ(13)

= 村の一年(続き) =

【八月】  
宗旨改め  
宗旨改めは年二回。春と秋に行われますが、秋は、一人一人血判を求められた春ほどには厳密ではありませんでした。  
御年貢蔵  
年貢蔵は村人の年貢米を一時的にプールしておく場所です。そこから福岡箕子町にあった藩の施設「永蔵」まで運んでようやく年貢納入もおしまいです。村には必ず年貢蔵があり、時には村で唯一の土蔵・瓦葺きということもありました。火事や盗難、鼠害などの恐れがあったからです。年貢蔵に収められるのは藩主に差し出す年貢米ですから、年貢蔵は民衆からは「殿ノ倉」と呼ばれていました。「御」を付けて呼ぶのも藩主に関係するものだからです。  
年貢蔵の隣には「斗家」が併設されてきました。斗家は米粒を選び分けたり、升で量って俵詰めをする場所です。このため、屋根とそれを支える柱だけから成り、周囲の壁はなかったようです。ちょうど相撲の土俵のような、大勢の人が四方から出入りして働くことが可能な作りでした。  
年貢納納の時期が近づいたので、年貢蔵と斗家について、屋根やむしろなどの手入れを求められていました。  
縄・俵の準備

いよいよ稲刈りです。稲刈りの前に、縄と俵を前もって準備します。言うまでもなく、刈り取った米を速やかに上納するためです。庄屋は村人を集めて、その点の念をおすことになっていました。  
縄や俵を作るのはたいへんな苦勞がありました。俵詰めをした米は福岡の永蔵まで運ばれ、そこから一部は武士の給米に回り、一部は大坂まで運ばれて販売されます。買い取られた米はさらに全国各地に運ばれます。縄や俵ががんじょうでないと、途中で米粒が目こぼれることになり、高く売ることができません。このため、一定の基準を示され、がんじょうな作りが要求されたのです。これには時間も手間もかかることになりました。  
特に、幕末期には家老立花弾正が「弾正縄」というものを考案し、農民はいつそう苦勞することになりました。このため立花弾正は農民のうらみをつかたということでした。  
箱崎・太宰府の祭礼  
八月十五日、二十五日は箱崎八幡宮と太宰府天満宮の祭礼です。毎度のことですが、この時も、改めて参詣の際に禁じられた贅沢品を身につけないようにと、村人は庄屋から注意を受けました。この日付は旧暦なので、現在は月遅れで祭礼が行われています。すなわ

ち、この時の八月十五日の箱崎八幡宮の祭礼とは、九月十二日から十八日まで行われる放生会のことです。  
収納の日割り  
年貢の納め方について、庄屋は当月中に収納日割り帳面を大庄屋に差し出します。植木村を例にとると、年貢米は一二七〇俵余。馬で往復するとして、馬は二俵を振り分けて運ぶので、延べ六三五頭を動員しなければなりません。収納は六回に分けて行うことになっていて、一回平均一〇六頭ということになります。何日から何日までという、収納の予定をあらかじめ書き出したのです。  
【九月】  
諸勸進の禁止  
勸進とは宗教者が一軒一軒回って、お金やお米を集めること。時には乞食を含めて、勸進と呼ばれることもあります。宗教者がお金やお米を集めるのは、寺院・仏像の建立や修繕のため。それらを負担する民衆の側では、求めに応じた金品を提供することで、死んだ後、生前の善事によって極楽往生したいという願いがあったのです。村には、宗教者だけでなく、芸能者や商人などさまざまな人たちが出入りしていました。年貢納入を控え、「諸勸進留」の高札が村の入り口に立てられました。村人が年貢納入に専念するため

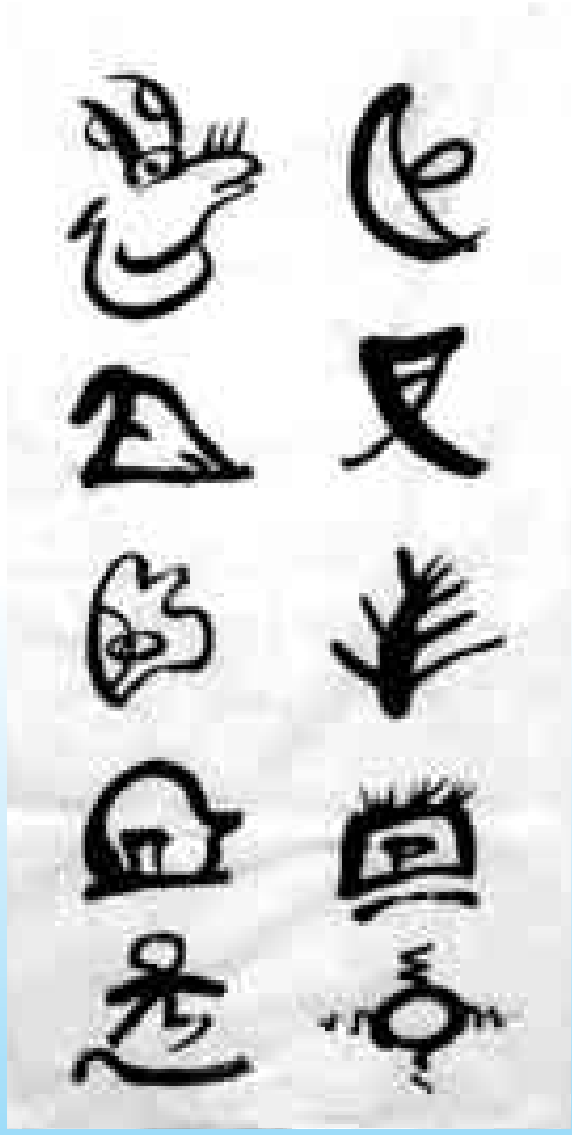
の、いわば環境作りです。  
私方米の記録  
年貢取り立ての私方米は、庄屋が十日ごとに調査し書き上げておくよう求められました。個々人の納付する年貢量はあらかじめ通達されています。自分の負担すべき分を納め終わることが皆済です。一番皆済は郡奉行により表彰されました。優良納税者の表彰制度があったのです。その前提として、当然ながら皆済者のチェックが行われていたのです。  
地頭納め  
これはすでに述べた通り、季節ごとに、村は知行主の侍に決められた物品を納入することになっていました。規定では、地頭納めは年末と五節句の時ですから、九月九日の重陽の節句がこの場合にあたります。  
他払いの禁止  
年貢・諸上納が終わるまでは決して他払いをしてはいけないということが村中に達せられました。収穫した米は一粒一粒を選び分けて、最も質のよいものは年貢に回されます。年貢納入を終わらない内に、米俵を動かしては、本来年貢に回されるべき良質の米を他払いしたのではないかと疑いがかげられることにもなりました。村外へ販売したり、返済したりするのは、あくまでも年貢を納め終わってからの話でした。

久我記念美術館

10月企画展 4日(火)~30日(日)  
(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・30日は午前中まで・入館無料)

## 秋本番 第11回須恵美術クラブ展開催!!

今年で11回目を迎える須恵美術クラブ展、会員38名、絵画、書、写真、工芸(陶芸、能面、パッチワーク、ステンドグラス、織物、染色)の各部門それぞれの精鋭が、技に磨きをかけ作り上げた作品60余点を展示いたします。  
見ごたえのある作品、作者そして森の美術館が息のあったハーモニーをかなでながら、みなさまのご来館を心待ちにしております。



明日松 照  
清泉 石上流

9月の企画展  
世利 好薇 奥村 完奈 二人展  
9月6日(火)~25日(日)  
(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入場無料)

大好評につき  
アンコールにおこたえて、エアジンのジャズコンサートも  
昨年に引き続き開催!  
日時 10月22日(土)18:30開演  
場所 久我記念美術館  
曲目 ミシェル・ルグラン(メドレー)他